

NPO やすらぎの郷 いいの

安心して住み続けられるまちをつくりたい！



地域の“お宝” 見守り隊

飯野地区見守り隊の活動は現在飯野・明治地区の31名で実施しています。実施団体は老人クラブ連合会で、主な活動は地域見守りと飯野小学校児童の登下校の見守りです。私ども飯野第四長寿会では学校より配布される下校時刻に合わせて、月曜から金曜日まで毎日2名一組でスケジュールを決めて、学校付近を中心に活動しています。

今回の大久保、青木小学校閉鎖によるバス通学とマイカーによる送迎が多くなり対象児童数が少なくなりましたが、これからも隊員の健康づくりと地区の安全のために頑張っていきたいと思えます。

飯野第四長寿会 会長 高野 善則

2. 訪問介護事業

令和4年度も同じメンバーでサービス提供しました。

月平均利用者数は前年度比1名増加し、利用回数も前年度より210回増加しました。収入の増加要因は、介護職員処遇改善加算の区分Ⅲから区分Ⅰへの上位変更と、利用者の増加による。

ただし、職員の処遇改善増加により、社会保険料の法人負担(1/2)が増加し、収支が悪化しました。

○利用者の状況 (単位：千円)

| | 3年度 | 4年度 | 増減 |
|------|--------|--------|-------|
| 利用者数 | 38 | 39 | 1 |
| 利用回数 | 5,517 | 5,727 | 210 |
| 収入 | 17,163 | 19,445 | 2,281 |

3. 居宅介護支援事業

居宅介護支援事業の体制も、前年度同様、異動ありませんでした。

前年度同様、非常勤の稼働割合が増加(1名が常勤水準までの稼働となりました。)したことが、利用者数及び収入の増加につながりました。

○利用者の状況 (単位：千円)

| | 3年度 | 4年度 | 増減 |
|------|-------|-------|-----|
| 利用者数 | 683 | 741 | 58 |
| 作成回数 | 683 | 741 | 58 |
| 収入 | 8,260 | 9,035 | 774 |

4. 支援活動事業

高齢者世帯や障がい者等に、会員を含む有償ボランティアにより、除草、清掃、墓地清掃等の生活支援を実施しました。

支援事業の利用者数は前年と同じで

すが、利用回数は減少しました。他方、大口の利用者があったことにより収入は前年度比72千円増加の662千円となりました。

○利用状況(3年度)

| 利用者数 | | ボランティア | |
|------|------|--------|------|
| 実人数 | 利用回数 | 実人数 | 作業時間 |
| 33 | 117 | 18 | 522 |

○利用状況(4年度)

| 利用者数 | | ボランティア | |
|------|------|--------|------|
| 実人数 | 利用回数 | 実人数 | 作業時間 |
| 33 | 108 | 20 | 547 |

5. 認定調査事業

福島市から業務委託を受けた介護認定調査です。福島市はコロナ禍で抑えていた調査件数が、次第に増加しています。

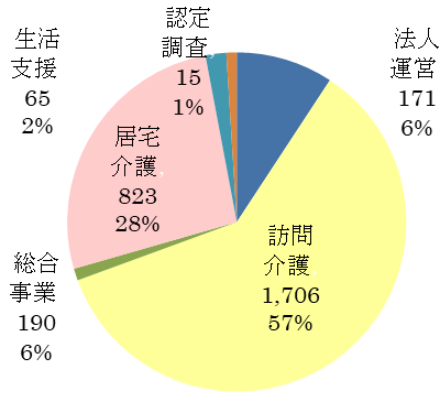
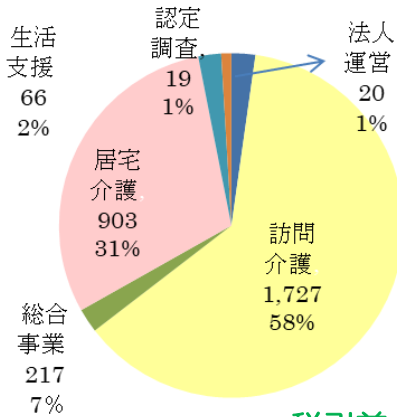
3年度の受託件数は40件で、4年度は55件と11件増加しています。

Ⅲ 役員改選

以下の者が役員に選出されました。任期は2年です。

- ・理事 伊藤 敏寛 (再任)
- ・理事 熊田 吉弘 (再任)
- ・理事 齋藤 憲芳 (再任)
- ・理事 齋藤 正義 (再任)
- ・理事 高野 靖久 (再任)
- ・理事 齋藤美智子 (新任)
- ・理事 菅野三三子 (再任)
- ・理事 齋藤 典子 (再任)
- ・理事 宇佐見芳子 (再任)
- ・監事 加藤 仁美 (再任)
- ・監事 高橋 正 (新任)





税引前 当期財産減 22万円 (税引後△30万円)

Ⅱ 令和4年度 活動の概要

令和4年度は、訪問介護事業が前年比2,281千円の増収、居宅介護支援事業でも同774千円の増収となったものの、法人としては301千円の赤字になりました。

訪問介護事業の増加要因は、介護職員処遇改善加算が13.7%に、新規に介護職員等特定処遇改善加算4.2%の適用を申請し、かつベースアップ加算補助金2.4%の適用を受けたことによります。居宅介護支援事業では、実質稼働件数の増加により増加しました。

1. 法人運営事業

会員数は新規役員等の増加により3名増加し、賛助会員も7名の増加となりました。

○会員・賛助会員数 (単位：名)

| | 3年度 | 4年度 | 増減 |
|------|-----|-----|----|
| 会員 | 30 | 33 | 3 |
| 賛助会員 | 55 | 62 | 7 |

○会費の状況 (単位：千円)

| | 3年度 | 4年度 | 増減 |
|------|-----|-----|----|
| 会員 | 108 | 135 | 27 |
| 賛助会員 | 59 | 66 | 7 |

会費の増加は、会員増加とともに、複数口数の会費納入者によります。今後は、賛助会員が継続的に支援してもらえるように努力していきたいと思います。

○委員会等活動

広報委員会では、令和4年度においても年3回の会報を発行しました。

ボランティア委員会では、ボランティアの高齢化等に対応すべく、新規ボランティアの発掘に注力しました。新春交歓会については、コロナウィルス感染拡大により、今年度も開催を自粛しました。

利用者は前年度と同じでした。

点がいききました。

「卒寿にて、我もなりたや、^び微
助入に」とあり、その方の想いは間
もなく90才を迎えるに至ったが、こ
の先支えられるばかりでなく細やか
ながらでも周りの人の心の支え、そ
して何かお手伝いの出来るような人
生でありたいということでした。

これを見て、あ〜まさしく私も “か
くありたい。” 今までの落ち込みをポ
ジティブに捉え、そして同じビスケ

ットでも湿気っぽいのよりサクッと
美味しそうに見えるビスケット、つ
まり何かに頼れる人、ささやかなが
らもお手伝いの出来る『微助人』の
爺様を目指していきたいとの思いに
至りました。

「我もまた、お互い様にて、微助
人」の気持ちで新たなるスタート、
気合を込めて

さ〜 位置について〜 ” 老〜い
ドン !! ”



みんなの広場



家族とともに、100年



伊藤 誠一さん

7月5日に100才を迎えられた
伊藤精一さんをご紹介します。農業
を継ぎ養豚を行なった後、なめこ栽
培、菌床椎茸の栽培へと事業を展開
されました。菌床椎茸は飯野町では
初めて導入されたそうで、“時代の
先駆者”です。きのこ作りの組合長
は30年、80才くらいまでされました。また、民生委員も数期任され地
域の為にも尽力されています。とて
も穏やかで優しく、亡くなられた
奥様の介護者でもありました。介護

I 令和4年度 決算状況

収入 2,953 万円

支出 2,976 万円



をしながら地域のサロンに出かけたり、出来る範囲で農作業もされてい
ました。奥様ととても仲良しで、ご
家族と一緒に最後まで近くに居て支
えておられました。半年前「100才ま
では生きられそうです！」と元気にニ
コニコとお話しされていたのを思い
出します。

聞き手：

〈ケアマネジャー 宇佐見 芳子〉

令和5年度 通常総会報告（5/29、書面表決）

令和5年度の通常総会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、昨年に引き続き書面表決による開催となりました。結果は、次の通りです。

正会員数 33 名。決算、事業計画、予算、役員選任すべての議案が承認されました。以下の新しい理事、監事各 1 名の方が選出されました。

理事 齋藤美智子



新たに理事として経営に関わることになりました齋藤美智子です。

新型コロナウイルス感染症における国の分類が5類となり、コロナ以前の日常生活が徐々に戻ってきています。

本法人の設立目的でもある、「住み慣れた地域で安心して生涯過ごすことができる」ように、地域の現状や課題などを、皆さんと一緒に考え、私自身も学んでいきたいと思っています。よろしく願いいたします。

監事 高橋 正

新たな監事に高橋 正さんが選出されました。次回号でご紹介します。

た。

なお、法人設立以来これまで監事として経営全般を監督していただいた高野孝夫監事、4年にわたり副理事長として務めていただいた高槻秀夫理事は退任されます。当法人発展への多大なご尽力に対し、感謝申し上げます。

退任される高槻理事に、メッセージをいただきました。

“ビスケットになりたい”
何じゃそりあ〜



高槻 秀夫

まだまだ若い、このまま頑張れると勝手に思い込ませていたが、突然の体調の変化、そして後期高齢者保険証への切替交付を迎えたことにより、いよいよ来るべき時が来たなと実感し、身辺を整理し終活の心構えの必要性を感じておったそんな所、ある日のTV放送で一人の年配の方との対談の中で、その方が詠まれた句の一節が私の心に刺さり、落ち込んでいた想いを覚醒させられました。

その句は「卒寿にて、我もなりたや、ビスケットに」聞いた時には、何だビスケットになりたい、え、何だそれと思っている内に画面に出た書体を見て再度びっくり、そして合



野草会回顧録

飯野野草会、創立 35 年余を数えようとしている現在、コロナ禍の影響もあって解散の危機に至ろうとしている。

昭和 63 年 3 月立ち上げ、会長に斎藤富之丞氏、副に須田泰司氏、庶務に菅野祐輔氏とそうそうたる顔ぶれによって創立した。



創立当時、「山荒し専門」と言われた事を思い出す。野草会としては「自然環境の保護」を唱え、山採り禁止令を出し、会員全体が戒め合ったものである。

展示会は、文化祭と同時開催で会場の一部で行った。平成 6 年から年 2 回の展示会は、単独開催で会場全

体を使い町内外からの見物を得た。

最盛期には会員数は 43 名の時もあった。会員数は年々減少を重ね近年では 10 名前後にまでなってきた、会の運営そのものが危ぶまれている。ましてや、前述のようにコロナ禍の影響で運営を 3 年余も休会することになり、鉢物の管理もままならず展示会に出すような物はほとんどなくなっているのが実状である。

前述のように会の運営の停止を検討中である。なお、写真は単独開催時の会場設営のひとつです。

〈飯野野草会副会長兼事務局
高橋 文男〉



NPO やすらぎの郷いの

福島市飯野町字前川 1 6

TEL 024-563-4804

ホームページ <http://yasuraginosatoiino.jp/>

一口一言

7/2 に♪ジジジ♪と聞こえてきました。ニイニイゼミの鳴き声です。あ！ゼミの初鳴き。毎年繰り返すのに、初鳴きを聞いたときは、なぜかうれしくなります。自然の音は、すてきな音楽。(K)